

大 和 建 第 6 5 9 号

平成 2 0 年 1 0 月 2 日

国土交通省道路局長 殿

大和村長 永田 武光



「今後の道路行政についての意見・提案」に関する回答について

標記の件について、別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

鹿児島県大和村

- * 過疎地域における道路整備は、交通需要推計や事業評価等において、無駄な道路として位置づけされるのではないかと危惧している。必要な道路とは、地域に生活する人々が判断し、整備をすることにより地域の活性化が図れるか、地方自治体が地元負担を行ってでも、整備を求めているか等によって、整備計画を行うよう要望したい。
- * 過去に、整備を行った道路で、近年の車両の大型化、交通量等を勘案し、開設時に整備を行っていない安全対策施設（ガードレール等）の整備や、老朽化した橋梁（床版橋）、通常の維持管理費で対応が困難な施設等の整備について、複数路線を部分的に行うことができるような新たな補助事業の創設が必要がある。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②-1 地域の現状と抱える課題

鹿児島県大和村

○現状

大和村は、1955（昭和30年）に5,500人余の人口は、現在1,800人余と大幅に人口減少が進み、過疎の村となっている。また、高齢化率も34.6%と高く、少子高齢化が急激に進んでいる。

少子高齢化に伴い、児童生徒数も減少傾向にあり、このままの推移でいけば、近い将来学校存続自体が厳しい学校も出てくると予想される。

本村には、進出企業も少なく若者の安定した雇用の場を確保することが困難な現状である。

しかし、近年の道路整備により、高校生や多くの若者が、隣接する奄美市の高等学校への通学や職場への通勤が可能となり、人口減少に歯止となる効果がでている。

○課題

少子高齢化や人口減少傾向を解消することが、村として大きな課題である。

一次産業の所得向上施策、企業の誘致、新たな雇用の場の創出等、若者が定住できる環境整備が重要課題であるが、その実現は容易でない。

児童生徒数の減少は、集団の中で学ぶ機会が十分に保障されていない等の問題をも生じさせつつあり、教育環境を優先的に考え、学校統合が喫緊の課題である。

②-2 地域の目指すべき将来像

鹿児島県大和村

- * 学校統合等により，児童生徒が遠距離通学になっても，公共交通機関利用時や自転車通学が安全で安心して走行できるような道路整備は不可欠であり，地域の通学路線を重点的に取り組み，学校統合による児童生徒への負担軽減を図る。
(主要地方道・名瀬瀬戸内線)
- * 台風常習地域は，県道等の基幹道路が災害により通行ができない事態が発生することが予想される。高校生や通勤者が安心して本村に定住する為には，災害に強い道路整備，もしも災害が発生した場合でも学校・職場等，目的地に行ける迂回路等の整備も必要である。
(大和・住用間の県道昇格，整備促進)
- * 隣接市町村との交流や観光施設へのアクセス及び農業団地から農産物の流通路として，既設道路を安全で快適に走行できることにより，一次産業の振興，農産物の荷痛み防止効果，地域の活性化に繋がる。
(村道・大棚名音線，村道・福元湯湾線，村道・清川線，村道川平線)

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

③道路施策の重点事項（代表事例，期待する効果や評価等）

鹿児島県大和村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
少子化対策	児童生徒数の減少は，定住する若者の減少が原因である。 若者の定住は安定した生活ができるだけの所得の確保が必要不可欠である。 耕地面積の少ない本村では，農業所得の向上は容易でない。 進出企業も少なく民間事業所等の雇用人口は少ない。 近年は，近隣市町村へ通勤する若者が増加傾向にある。	近隣市町村と結ぶ県道は，近年，整備が進み，学生寮や下宿を利用する高校生が年々減少し，通学バスを利用する高校生が増加している。また，通勤する若者も年々増加傾向にある。 この県道改良を行うことで，通学・通勤が安心安全で快適，更に時間短縮が実現することにより，人口増加が期待され，若者の定住・児童生徒数の増加に繋がる。	大和村国勢調査による人口の動向 西暦：人口 1960：5, 105 1970：3, 136 1980：2, 509 1990：2, 251 1995：2, 092 2000：2, 104 2005：2, 012